

ブログ (2018.7) 「意識とメタ過程」特集 (人工知能学会誌 (2018.7)) を読んで、の詳細：
<http://www.1968start.com/M/blog/index.html#1807b>

人工知能学会誌 (2018.7) の「意識とメタ過程」特集を読んで

第1次AIブームの時の私の修論 (1969~1971) の視点からコメントを述べる。

■この特集「意識とメタ過程」の2番目の解説記事

「痛みを感じるロボットの意識・倫理と法制度」について、

本解説は、「認知発達ロボティクスの近年の進展を思想的背景を踏まえて概観しつつ、痛みと人工意識の技術的可能性、自律性の概念と意識・メタ認知との関係、さらに、道徳的行為者・受益者としての人工システムと未来共生社会との関係について論ずる」とのことである。

詳細な部分は理解できないまま、部分的なコメントを記載。

●解説論文へのコメント

・2章の意識・人間や事物 (技術) の課題の思想的背景の概略に関して、

本文引用「あるべき人間像に基づく道徳的評価は、結局標準的人間になることを求める以上の意味をもち得ない」という考えを紹介している。

↓

(コメント) 同意。このフレーズから、1960年代半ばの中央教育審議会の「期待される人間像」を思い出してしまった。詳細は以下の過去のブログ参照：

(2013.12) 番外編：(昭和史再訪)「期待される人間像」について

<http://www.1968start.com/M/blog/old.html#1312>

・3章の人工意識は実現可能か？に関して、

本文引用「意識と無意識を定義し、・・・意識に最も近い前意識が数多く並列で作動しており、・・・いったんポップアップされて意識レベルにのぼると、系列的処理の集中を受け、その他の無意識の知覚がマスクされる」という考えを紹介している。

↓

(コメント) 同意。私の修論のモデルでも、集中関数を導入し、大脳における思考エネルギー分布の集中化作用で、意識を表現している。

(参考) <http://www.1968start.com/M/bio/olduniv/gakkai7012.html>

・本文引用「他の哺乳類や動物にも意識は生じる。ただし、ヒトの場合、言語がコミュニケーションシステムとしてよりも、表象装置として進化し、考え出す能力を与えたとして、表象レベルが他の動物に比べ抜き出ている」という考えを紹介している。

↓

(コメント) 同意。私が修論で参考にしたヴィゴツキーは、著書「思考と言語」(1934)で、特

に言語機能を外言（音声言語、コミュニケーション言語）と、**内言（思考言語）**の二つに分離して議論している。ヴィゴツキーについては、過去4回のブログ（2018. 5、2015. 8、2014. 7、2008. 3）で言及している。

・ 9章のロボットと法制度に関して、

本文引用「現状の法制度では、最新AI技術には対応できず、ロボットが自身で学習した結果に基づく行動に対する責任は、設計者、製造者、利用者のいずれかに及び、健全な科学技術開発を圧迫しかねないと危惧している」

↓

(コメント) この主張は理解できない。

「ロボットが自身で学習した結果に基づく行動」とは？

「健全な科学技術開発」とは??

*利用者との対話で学習するチャットボットのトラブルに関する過去の2件のブログ：

<http://www.1968start.com/M/blog/index.html#1708>

(2017. 8) 共産党批判でサービス停止のチャットボットの再教育とは？

中国IT企業が提供するチャットボット「ベビーQ」は、利用者との対話を繰り返して学習し、ユーザーからの質問に共産党批判で答えたことから急きょサービスを停止した。

<http://www.1968start.com/M/blog/old.html#1603c>

(2016. 3) 差別発言した人工知能の学習モデルは？

人工知能を使ったマイクロソフトのチャットボットT a y（テイ）がツイッターで差別発言をして、公開から1日足らずで実験中止とのこと。

これらの例について、システム管理者の責任としてよいのでは。

学習前のシステムを販売した場合、使用上の注意（警告）を明記した承諾書を取っておけば、購入者の責任でよいのでは。

以上